



北海道帯広養護学校グランドデザイン（2024）

学校教育目標

令和6年4月1日

明るく、豊かに、たくましく、自ら考え、社会に生きる人を育てる

目指す児童生徒の姿

- 学んだことを生活に活かせる児童生徒
- 自分のことばで、理解・表出できる児童生徒
- 自分で考え、やりたいと思える児童生徒

目指す学校の姿

- 共に学び、共に育つ学校
- 「児童生徒と学び 保護者と学び 地域と学ぶ」
- 児童生徒が通いたいと思える(学びのある)学校
- 保護者が通わせたいと思える(信頼される)学校
- 地域が共に育てたいと思える(貢献する・開かれた)学校
- 教職員が働きたいと思える(協働する・学び合う)学校

目指す教職員の姿

- 児童生徒の自主性・主体性を重視した指導のできる教職員
- 主体的に取り組み、学び続ける教職員
- 児童生徒、保護者、同僚と共感・共同し合える教職員

児童生徒の状況

- 知的に障がいのある児童生徒が221名在籍している。
- 社会生活経験や体験が少ない。
- 対人コミュニケーションを指導目標としている児童生徒が多い。
- 身体障がい、病虚弱、視覚障がい、聴覚障がいなどの重複障がいのある児童生徒が52名在籍している。
- 医療的ケアが必要な児童生徒が11名在籍している。
- 訪問教育学級に在籍し在宅で学ぶ児童生徒が2名及び病院で学ぶ児童生徒が5名在籍している。
- 寄宿舎で生活している児童生徒が15名在籍している。

令和6年度 重点教育目標

- 児童生徒一人一人の障がいの状態や特性、発達段階等を踏まえた授業力及び実践力の向上に努める。

何ができるようになるか？ (学校の基本)

- 学んだことを社会生活に活かせる力を育てる。
- 自分の思いを伝えられる力を育てる。
- 自分から取り組める力を育てる。

何を学ぶか？ (教育課程の編成)

- 教科等を合わせた指導、教科別の指導、総合的な学習(探究)の時間、特別活動、自立活動、特別な教科道徳
- 各教科の関連性をもたせた教科横断的な視点の指導計画
- キャリア発達支援を意識し、12年間を見通した系統性のある指導計画

どのように学ぶか？ (教育課程の実施)

- 社会生活に活かすための基礎・基本の習得
- 主体的対話的で深い学び
- 交流及び共同学習
- 地域貢献活動
- 寄宿舎生活
- 確かな学部間接続
- 特別活動の見直し

何が身に付いたか？ (学習評価)

- 個別の教育支援計画
- 個別の指導計画(通知表)
- 個別の移行支援計画
- 個別の生活指導計画(寄宿舎)

実施のために必要なこと

- 教務、舍務、事務、保護者、関係機関との連携・協力・協働
- 「できた・やれた、伝わった、分かった」を重視した授業
- 地域の方々と直接的なかかわりをもつ学習活動の導入
- (対話による情報共有、具体的な行動の可視化)
- ICT機器を活用した授業改善と研修(2年計画2年次)
- 社会に開かれた教育課程の実施

令和6年度 重点実践事項

1 安全・安心な学校

- ・人権尊重
- ・予防的な対応の充実

2 教育課程の編成・実施

- ・特別活動の見直し・確かな学部間接続

3 地域との連携

- ・対面での活動促進・校外での活動促進

4 ICTの効果的な活用

- ・児童生徒の発達を支えるICT活用

5 働き方改革の推進

- ・教職員間の対話
- ・業務の見直し

6 情報発信の充実

- ・教育活動の積極的な発信(SNS活用)

研究主題：ICT機器を活用した、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善

～児童生徒の「できた・やれた・伝わった・分かった」を引き出せる授業を目指して～(2年研究の2年次)